

説明会資料 対応ページ	読み原稿
1	(挨拶)
2	<p>本日は、今回お示し致します柏原地区での具体的な認定こども園の開設に向けた計画（案）についてのご説明となります。早速、説明に入らせていただきます。</p>
3	<p>昨年の7月に柏原市では「公立幼稚園及び公立保育所の再編整備に関する基本計画」を策定しております。</p> <p>この基本計画では、柏原市における子育て環境を取り巻く課題として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎公立幼稚園園児の減少</li> <li>◎保育所待機児童の増加</li> <li>◎幼稚園及び保育所園舎の老朽化及び環境整備</li> <li>◎保育士の不足</li> <li>◎小学校との円滑な接続</li> </ul> <p>等を確認し、これらの課題の解決策をそれぞれ個別に提示し、公立幼稚園と公立保育所を統合し、認定こども園とすることにより、同時に解決を図って行くことをお示ししております。</p>
4	<p>施設の形態を認定こども園とすることで、幼稚園で実践している幼児期の教育 と保育所で実践している保育を一体的に行う施設となります。</p> <p>併せて、様々な子育て支援事業を通じて地域における全ての子育て家庭に寄り添う施設となります。</p> <p>児童の年齢によっては、保護者の就労状況等の変化に関わらず、小学校入学まで同じ施設・同じ環境のまま通うことができる施設となります。</p>
5	<p>基本計画をベースに、市の状況や様々な要素を総合的に勘案して具体的な再編整備について、これまで検討を進めてまいりました。</p> <p>検討の結果として、「実施計画【第1期】（案）」としてお示ししている公立幼稚園と公立保育所の今後の再編スケジュールをご説明いたします。</p> <p>まず、柏原地区について、基本計画では「柏原西幼稚園と柏原西保育所を統合」、「柏原保育所は検討を続ける」とお示ししていました。基本計画策定後、具体的な検討を進めていましたが、園舎を改修する際には、周辺環境に配慮した工事が必要となること、また、改修時における児童の保育場所等が課題となっていました。</p> <p>これらの課題解消に向けた検討を進める中、並行して柏原保育所を含めた3施設による再編についても改めて検討を行ってまいりました。</p> <p>新たな園舎の建設場所として柏原小学校の敷地の一部、多目的広場を活用した園舎の建設が可能となれば、工事期間中の保育場所を確保したまま新園舎に移動できるという考えに至りましたことから、教育委員会等と協議を重ね、この度ご協力いただけることとなりました。</p> <p>工事による児童への影響や開設後の周辺道路の状況、園舎の建築費用等の観点からも改めて総合的に判断した結果、今回の再編実施計画では「柏原西幼稚園と柏原保育所を統合」、「柏原西保育所は、認定こども園開設後5年を目途にそのあり方について検討を行う」ことに変更させていただいています。</p>

説明会資料 対応ページ	読み原稿
	<p>続いて、国分地区ですが、こちらも基本計画では、「平成32年度を目標年度として国分幼稚園と国分保育所を統合する」としていましたが、代替地が無く、現在の施設を用いるには、児童数や施設基準などの理由で再編・統合は困難であること。また、関西女子短期大学附属幼稚園が認定こども園化されることなど民間施設等の動向を見守る必要があることなどから、目標年度を平成33年度以降に延期いたします。玉手幼稚園と円明保育所についても同様の理由により、引き続き平成33年度以降を目標年度として検討を続けてまいります。</p> <p>堅下地区と堅上地区については、基本計画の予定から変更はないため、説明を割愛させていただきます。</p> <p>柏原地区以外につきましては、再編に関して具体的な時期や場所等全て未定ですが、基本計画にあるとおり、「再編」を決定事項として今後も検討を続けていきます。</p> <p>いずれの地区においても、再編の目処やある程度の予定が出来上がり次第、説明会等を開催し、保護者や地域住民等の理解を得ながら再編を進めていきたいと考えています。</p>
6	<p>次に、就学前児童施設の定員充足率についてご説明いたします。</p> <p>公立、民間併せて市内に14施設あります保育所及び小規模保育事業所の10月1日現在の入所率は、全体で96%と高い数値を示すとともに、0歳児から2歳児で67名の児童に保育所入所をお待ちいただいているような状況となっています。</p> <p>一方、公立幼稚園5施設の10月1日現在の入園率は、32%と年々減少傾向にあります。</p> <p>また、平成30年度柏原西幼稚園入園希望の4歳児は、現在のところ15名となっており、4歳児15名、5歳児21名の計37名となる予定で、依然、在園児の減少は進んでいます。</p>
7	<p>次に、柏原地区にある施設の状況をご説明いたします。</p> <p>柏原地区の就学前児童施設の状況は、表のとおりとなっています。</p> <p>保育所は、柏原保育所と柏原西保育所の2施設、幼稚園は、柏原西幼稚園1施設であり、民間施設が無く、いずれの施設につきましても、建築後40年以上経過しており老朽化が進んでいる状況にあります。</p> <p>また、保育所には幼稚園のような園区の設定はないものの、柏原地区には0歳児からの保育に対応した施設がない状況にあります。</p>
8	<p>次に（仮称）かしわら認定こども園の施設整備の内容についてご説明させていただきます。</p> <p>上空写真で図示しているとおり、新園舎の建設場所については、現況図の柏原保育所に近接する多目的広場（A）、柏原小学校の敷地の一部（D）を活用し、再編後の新園舎建設予定地（X）にて新園舎を建築します。</p> <p>新園舎建築後に現柏原保育所園舎（B）を取り壊して現在の園庭（C）と合わせて新たな認定こども園の園庭（Y）とします。</p> <p>新たな施設の建築に当たって、児童を仮設園舎で保育する必要なく、同じ場所で保育を継続することで柏原保育所児童への工事の影響を最小限に留めてまいります。</p> <p>なお、具体的な柏原小学校との敷地境界や施設の構造等は、設計業務委託事業者との協議により決定していきます。</p>

説明会資料 対応ページ	読み原稿
9	<p>次に、現在想定しています（仮称）かしわら認定こども園の施設整備に関するスケジュールです。予定といたしましては、平成30年3月頃から施設の設計に取り掛かり、平成31年1月頃からの工事の着工を目指します。</p> <p>平成31年12月頃迄に新園舎を完成した上で、認定こども園の開園前に完成した新園舎で柏原保育所の児童を保育し、その後、現柏原保育所園舎を解体して認定こども園の園庭とします。</p> <p>これらの施設整備をした後に、平成32年4月からの柏原西幼稚園と柏原保育所を統合した認定こども園の開設を予定しています。</p> <p>なお、柏原西保育所については、（仮称）かしわら認定こども園開設後5年後程度を目処に、その時点での柏原西保育所の入所状況や民間施設の動向等を見定め、あり方について再検討を行います。</p> <p>平成31年度に柏原西幼稚園、柏原保育所のそれぞれに在籍している児童で、次年度にそのまま進級する児童らは、新たな認定こども園に通っていただくこととなります。</p> <p>引継ぎ児童の受け入れ体制は確保した上で、建設予定地で建設できる施設規模、今後の見込み等を考慮し、現在のところ、開設する認定こども園の定員につきましては、155名～187名程度を想定しています。</p>
10	<p>ここにお示していますのは、柏原市が目指す教育・保育と子育て支援の理念です。</p> <p>平成29年3月に改訂（定）・告示され、平成30年4月から施行される「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」において、認定こども園・幼稚園・保育所といった就学前児童施設での子どもたちの教育・保育内容が共通化される予定です。</p> <p>このことから、子ども達が柏原市の認定こども園・幼稚園・保育所のいずれの施設でも同様の質の高い教育・保育が受けられるよう、平成28年6月に設置した「教育・保育研究会」において、幼稚園教諭、保育士らが保育内容などの研究を行っております。</p> <p>柏原市として、ここにお示しする理念を礎に、市内の就学前児童施設において、将来を担う子どもたちの健やかな成長を見守り、子育て環境がより充実するよう、市全体で取り組んでまいります。</p> <p>以上が、柏原地区での公立認定こども園の開設に向けた柏原市の実施計画（第1期）（案）となります。</p>
11	<p>ご清聴ありがとうございました。</p> <p>お配りした説明会資料の巻末に児童数の推移や待機児童の状況などの情報を掲載しておりますのでご覧ください。</p>